山口県立山口博物館

学校との連携事業推進のエンジンMT（ミュージアムティーチャー）!!!

「博物館学校地域連携推進事業による多面的連携事業の展開」

【ミュージアムティーチャーの配置による推進】

山口県立山口博物館では、平成16年より博物館と学校の連携協力を進める事業として、博物館学校地域連携推進事業を実施している。

この事業は、博物館が有する理工・地学・植物・動物・考古・歴史・天文の７部門の30万点を超える資料、専門的な知識や技能をもった学芸員を活用し、学校の教育活動と博物館の教育普及活動の連携を強化し、県下の小・中学校等や地域の博物館利用を促進させることを目的としている。博物館の貴重な教育資源を学校等に紹介し、授業などの教育活動での利用促進を図ることにより、より質の高い授業が展開され、子どもたちの学習に対する意欲を喚起することをねらいとしている。

最大の特徴は、「長期研修教員」として、小学校教頭職１名、小学校教諭１名、中学校教諭１名の合計３名が、この事業を専ら担当していることにある。

１　事業実施の経緯

平成16年度　「博物館学校連携推進事業」として発足。小学校１名、中学校１名の社会体験研修教員がMT（ミュージアムティーチャー）として配置される。

平成18年度　さらに教頭職１名が配置される。

平成19年度　「博物館学校地域連携推進事業」として、「地域」の名称が加わり、「教員・PTA・地域支援」の活動にも取り組むことになる。

２　ミュージアムティーチャー

長期研修教員として、１年任期で派遣されている現職教員であり、「学校からの社会見学や館内授業、出前授業などの申込みを受け付け、日程や内容の調整を行う。」「専門的な知識や技能を持った博物館学芸員と教育普及活動をコーディネートする。」「博物館の持っている教育資源を活用した教材開発を行う。」ことなどを担当している。

専属の職員を配置することで「来館利用」「館外活動」「広報活動」「教材開発」等の「連携」として考えられるほとんどすべての事業を展開している。専属の教員を制度的に派遣しているということが山口県立山口博物館の最大の強みといえる。この制度が、博物館学校地域連携推進事業の実施にとって大きな力となっている。学校現場や児童生徒の状況を把握した３名の教員が、プログラム作成等から事業実施評価に至るまでその持てる力をフルに発揮している、極めて優れた取組であるといえる。

【学校との連携事業の実際】

山口県立山口博物館では連携事業を「来館利用」「館外活動」「広報活動」「教材開発」の４区分で整理している。各区分の具体的事業内容は以下の通りである。学校との連携で考えられるあらゆる事業を用意し、提供していることは、全国の博物館の中でも傑出した事業展開であるといえる。

①「来館利用」

社会見学（入館説明、ミニ館内授業、見学用ワークシート、特別展示）、館内授業、職場体験学習、「講座」活用

②「館外活動」

出前授業、教育用資料・教材、移動教室、地域イベント、教員・PTA・地域支援

③「広報活動」

博物館だより、リーフレット「博物館ガイド」、「博物館がやってくる」、インターネット（ホームページ、メルマガWebページ、電子会議室）

④「教材開発」

現在は、理工・地学・植物・動物・考古・歴史・天文の７つの領域に関して、授業用として学校に貸出しできる資料を作成・準備している。

毎年MT（ミュージアムティーチャー）が「博物館学校地域連携推進事業報告書」を作成し、事業の評価点検を行い、新たな課題に挑戦し続けている。

また、事業の内容や実施状況、貸出し教材の実物の状況また評価としてのアンケート結果などをホームページに掲載し、県内全域に対する事業の広報に努めている。

なお、学校・地域の教育活動と博物館の学習プログラムとの連携を強化し、県下全域の小・中学校等や地域の博物館利用を推進することをポリシーとしており、広報活動として、「先生のための博物館ガイド」を作成し、県下全小中学校に配布している。

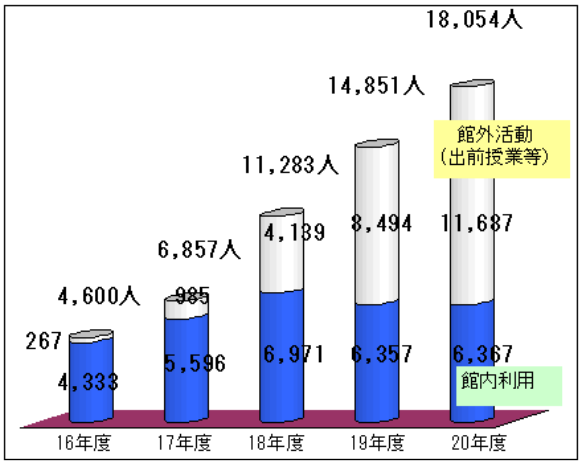
【成果と課題】

１　利用者の大幅増加

平成16年度より推進事業を実施した結果として、学校との連携事業の利用状況は急速に増加している。平成15年度までは年平均3,000名程度であった利用状況が、平成16年度には５割程度増加し、以後急速に利用状況が伸びており、平成20年度には、館内利用が平成15年度以前の総利用数の２倍強、館外活動にいたっては４倍弱

の増加である。合計での利用数は6倍の増加となっている。（グラフ参照）これは、本事業に取り組んでいるミュージアムティーチャーの努力に負うところが大であるとのことである。また、事業のシステムや学校が利用して効果があること、学校にとって利用しやすいシステムであることが学校に周知されていくにつれ、利用のニーズが年々増加する効果が生まれている。

【館内・館外利用実績　年度別利用者数】

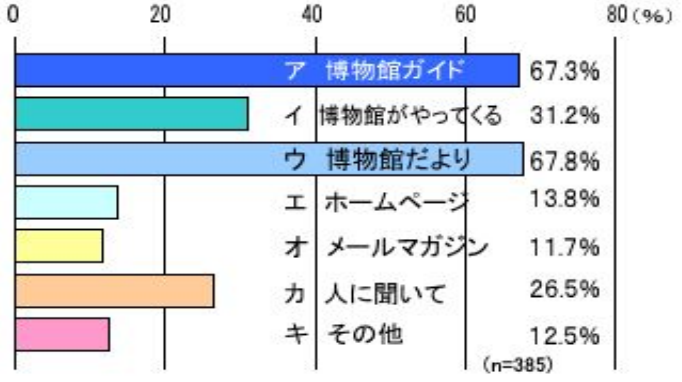


２　利用者アンケートの実施

平成19年度には、県内全小中学校に対して博物館学校地域連携事業に関するアンケート調査を実施している。この調査からは、博物館学校地域連携事業の認知度が高まっていることや、事業効果があることの認識が見て取れる。また、博学連携事業が、「博物館ガイド」や「博物館だより」等の博物館からの積極的情報提供等の広報活動によって認知度が高められていることがわかる。

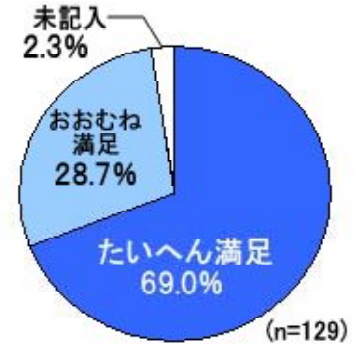
【本事業の認知度】

【本事業の情報源】

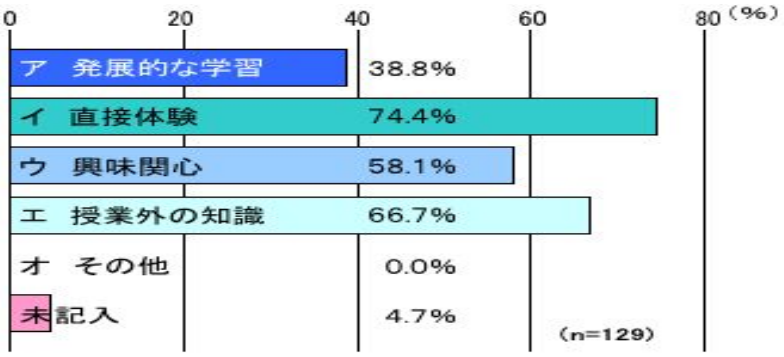


利用の満足度や効果についても以下のとおりのデータが示されている。利用した学校にとっての満足度は極めて高いものとなっており、その効果に関しても、直接体験の有効性や博物館の持つ資源が発展的な学習や子どもの興味関心に応えるものとなっていることがわかる。

【利用後の満足度】

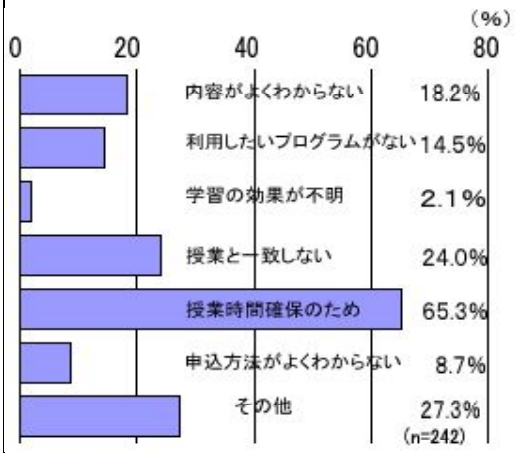


【利用の効果】



一方、利用しない理由については、「授業時間確保」が圧倒的に多く、県内全域を

【利用しない理由】



対象とした学校との連携事業の展開の中で、地理的要因や交通手段の確保、経費の確保等の課題が見て取れる状況である。

　また、平成20年には、利用した児童・生徒を対象としたアンケート調査も実施されている。その概要については博物館ホームページに掲載されているので、そちらを参照されたい。実際に、「社会見学」「出前授業」を体験した子どもたちが評価しており、学校との連携事業が子どもたちの学びにもたらす効果について如実に確認することができる。例えば、「社会見学」に参加した子どもたちの自由記述部分を、内容によって「興味・関心」「知識・理解」「実験・観察」「その他」に分類しているが、最も多いのが、「実験・観察」で５７％となっており、博物館を利用したことの効果がとらえられる回答状況が示されている。

３　課題

○事業実施以来の利用者の増加が著しく、３名のミュージアムティーチャーによる館内・館外活動事業展開が飽和状態に近づいている。フル稼働で出前授業や館内利用のサポート、教材開発等を行う状況になってきている。

○博物館からの距離が遠い学校や小規模校への出前が増えれば利用者数は減少し、近い学校・大規模校が増えれば利用者数は増加するというジレンマがある。

○教材作成事業などでは、材料単価が高く、予算的課題もある。

○広報リーフレット等で市町教頭会や県校長会等で説明会を実施しているが、県内全域の教員一人一人に周知されている状況でない。そのため、HPによる広報活動を充実させ、メールマガジン配信事業にも取り組んでいる。

○博物館１日体験研修や１０年経験者選択研修会を行っているが、参加者に限りがあり、利用促進のために、さらに研修参加を拡大していく必要がある。

《施設データ》

館　名　：山口県立山口博物館
所在地　：〒753-0073
　　山口市春日町８番２号
電　話　：（０８３）９２２－０２９４FAX
　　：（０８３）９２２－０３５３
設置年　：明治４５年
設置主体：山口県教育委員会
ホームページ：　http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/
入館者数：平成20年度　４７，３８６人

参考資料：「平成20年度博物館学校地域連携推進事業報告書」山口県立山口博物館編
※　掲載した写真・図・表は山口県立山口博物館のホームページから転載しました。